

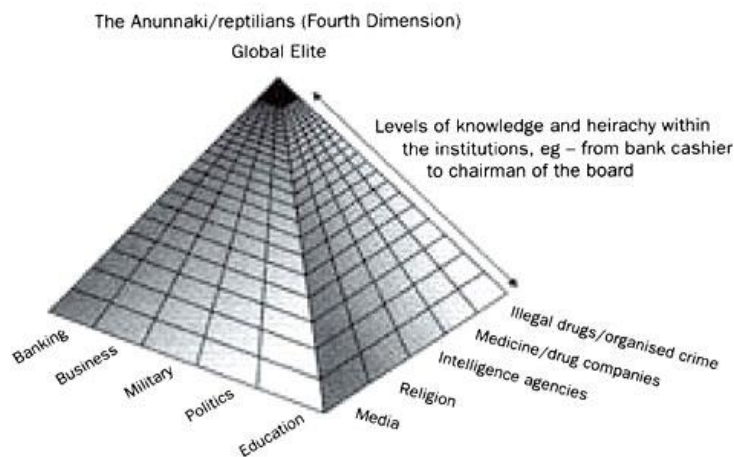
## スヴァーリ：イルミナティ離脱者が語る（2の1）

### ——マインド・コントロール、人身御供、血統

【訳者解説】このところ急増した、イルミナティ離脱者による内部事情の告発証言の中でも、Svali（偽名）によるものが最も価値があると思われる。これまでに何度かここで取り上げた。Svali を google すれば、大量の文献（とインタビュー）が出てくるが、これは Project Camelot/ In Tribute/ Svali というサイトの翻訳である。この証言は 2000 年から 2002 年のもので、かなり時間がたっているが、我々の大多数にとっては、どの項目も、新鮮で、衝撃的で、思いがけないが、聞いて謎が解けるものが多いだろう。（ロシアについては、まだブーチンが反イルミナティのリーダーシップを取る前だということを、忘れないでいただきたい。）

Svali に限らないが、このよう脱走者たちによる、文字通り命がけの証言がもしなければ、我々の解放は、相当年月遅れたことであろう。彼らが我々に仕掛けてくる戦争が、どのような性質のものであるかを知らなければ、戦いようがない。これは「イルミナティ・インサイダーたちの明かす、エリート集団の秘密のからくり（2の2）」に明らかのように、地上の戦いではない、疑いもなく霊的な戦いである。もしそういう言い方を嗤うなら、霊的次元を我々から隠して我々の進化を妨げる、彼らの戦略にはまったことになる。

### The Pyramid of Manipulation



Henry Makow Ph.D

October 14, 2002, Rense.com

もしあなたが、現在の出来事に悪魔の手を見るなら、あなたは自分で思っているより真理に近いかもしれない。

あるイルミナティ・カルト集団で育てられた女性が説明するのは、あらゆる社会的組織に侵入し、ひそかに軍事的な占領を企てている、アメリカ人口の1パーセントからなる、強力な秘密組織である。彼女の暴露は、“テロとの戦い”や“祖国安全保障”に真の光を当てるものだ。「スヴァーリ」とはこの女性、45歳の偽名で、彼女は1996年までマインド“プログラマー”をやっていた。彼女は、サンディエゴ支部の6番目の主任トレーナーで、30人のトレーナーを統率していた。彼女は生命を危険にさらしながら、イルミナティのひそかな権力とアジェンダについて、人類に警告することにした。

彼女は、世界で最もカネと力をもつ人々によって率いられる、サディスティックな、サタンのカルトについて説明している。彼らはほとんどが、ホモセクシュアルであり、小児性愛者であり、動物のいけにえや、人間の儀式的殺人を実践している。この集団はCIAやフリーメイソンと結託して動いている。それはアリア人至上主義だが（頂上ではドイツ語が使われる）、ユダヤ人の変節者を歓迎している。それは、ドラッグ、銃器、ポルノ、売春の世界的取引をコントロールしている。それは9・11、メリーランド銃撃事件、バリ島爆弾事件を含め、政治的暗殺、“テロリズム”の背後にある手と考えられている。

それは、地方、州、国家レベルの政府、教育、金融機関、宗教、それにメディアに入り込んでいる。それはヨーロッパに本拠をもち、“世界秩序”を計画しているが、それに比べたら、その初期の試みであるナチズムや共産主義などは、遊びにしか見えない。一つ重要なことは、これらの人々が幸せではないということである。

スヴァーリの勇気ある証言は、なぜ我々の子供たちが、もはや市民的価値を教えられないか、なぜ彼らがホモや暴力に慣らされているか、なぜ我々の“文化”がニヒリズムや性的墮落にはまってしまうのかの、説明を与えてくれる。それは、ジョージ・W・ブッシュや彼の政権担当者がイルミナティであった可能性、また世界の“エリート”の多くが、不可解な犯罪的陰謀に関わっている可能性を浮かび上がらせる。

2000年3月に、スヴァーリは、Suite101.comにおいて、イルミナティの儀式的虐待の生存者たちのために、月ごとのコラムを書き始めた。2000年12月に、CentrExNews.comの編集者H.J. Springerがスヴァーリと契約し、Eメールによる18回の長いインタビューを行い、これがネット上に再生され、著作権を得ている。

[プロジェクト・キャメロット注：Suite101.com 記事はここにある。スプリンガーの 18 回のインタビューの 13 回分がここに再録されている。]

「私は彼女が本物であると確信しています」とスプリンガーは、私に書いてよこした。「私は個人的に、他のメンバーからの——儀式的虐待、洗脳、強姦、性的虐待、等々を受けた人々からの——彼女への沢山の E メール・メッセージを見せてもらいましたが、そのいくつかは彼女の話を確認するものでした。だから私は、スヴァーリが子供時代からイルミナティの中にいたことに、全く疑いを持っていません。」

私もまたスヴァーリの証言を信ずるが、それは、私の直観と集中的な研究を確認するからである。すべてがぴったり符合する——人間性を抑圧するような死の手から、なぜクリントンが中国政府に秘密のテクノロジーを与えたのか、またアメリカの強制収容所の報告が執拗に続く事情まで。それは、なぜ私の知っている人たちが、陰謀のような振舞いをするかをも説明する。私はスヴァーリが、世界を理解するための、恐ろしいが、信じられないほど貴重なカギを、与えてくれたことに感謝する。

ある友人が、偽物に気を付けるように忠告してくれ、スヴァーリの個人的な物語を確認してあげようと言ってくれた。私はそれを受けた。私は読者には、彼女の証言全体を読んでもらって、自分で判断していただくようお願いする。私は彼らの許可を得て、スヴァーリの CentrExNews.com のスプリンガーへの応答のいくつかを、ここに抜粋した。私はまた、彼女の論文「イルミナティは世界を征服しようとしているのか？」からも引用した。

## 浸透する存在

スヴァーリ：

「イルミナティは、アメリカのあらゆる大きな主要都市に存在しています。イルミナティがある領域を支配する手段と考えているのは——その**銀行と金融機関**（銀行の重役にどれくらいいるか当ててみてください、驚くはずです）、**地方政府**（地方都市議会にどれくらい選出されていると思いますか？）、**法律**（子弟はロースクールと医学スクールに行くことを勧められる）、**メディア**（他の者はジャーナリズム・スクールに行くことを勧められ、メンバーは地方紙を財政援助している）などです。」

## 信仰

スヴァーリ：

「イルミナティは“enlightenment”（光を与えられること）と呼ばれる信仰形態を実践しているグループです。それはルシファー信仰であり、帰依者は、その根源がバビロン、エジプト、ケルトのドルイディズムなど、古代神秘宗教にまで遡ると教えられます。彼らは、それ

ぞれの“最上部分”と考えるものを取って、基本的習慣とし、それらを合わせて強力なオカルト信仰を創りました。地方レベルの多くの集団が、El、Baal、Ashtarte、また“Isis と Osiris”、Set といった古代の神々を信仰しています。…これらの人たちが悪を教え実践していることは確かです。」

## ワイスハウプト

スヴァーリ：

「ワイスハウプトがイルミナティを創ったのではなく、彼らが彼を看板として選び、何を書くべきかを彼に教えたのです。イルミナティを創ったのは金融資本家で、彼らは Templar 騎士団の時代の銀行家にまで遡り、ヨーロッパの初期の王たちを金銭援助したのです。ワイスハウプトは彼らの代行者で、言われた通りにやったのです。」

## 軍事的占領

スヴァーリ：

「簡単に言えば、アメリカのそれぞれの地域に“神経中枢”すなわち、地域の活動のための権力基地があります。アメリカは 7 つの大きな地理的地域に分かれています。それぞれの地域には、その内部に、辺鄙な、隠され孤立した地帯、あるいは広大な私有地があり、軍事的な囲い地になっています。

これらの基地は、時折、軍事的技術を、若いイルミナティに教え訓練するのに用いられ、素手による格闘から、群衆コントロール、武器の使い方など、あらゆる軍事的闘争の技法を教えています。なぜかわかりますか？ それは、イルミナティの考えでは、我々が知っているような政府は、それに世界中のほとんどの国家の政府も、すべて崩壊する運命にあるからです。それらは計画された崩壊で、次のような過程によって起こるでしょう——イルミナティは最初に、金融大崩壊を計画しており、これは恐慌が単なる遊びに見えるほどになるでしょう。これは大銀行の策動と世界の金融機関を通じて、株の操作と利率の変動を通じて起こるでしょう。ほとんどの人々は、銀行やクレジットカードの負債などを通じて、連邦政府に負債が生ずるでしょう。政府はすべての負債を直ちにリコールするでしょうが、ほとんどの人々は払えなくて破産するでしょう。これが一般化した金融恐慌をつくり出し、それは、イルミナティが、金融によって人々を支配するとき起こると確信している通り、世界中で同時に起こるでしょう。

聞きたくない話でしょうね？ 私はこれが起こる正確な時間枠を知りませんし、推量したいときえ思いません。よいニュースは、もしある人の借金がなくなり、政府やクレジット負債に対して何も義務がなく、自給自足で生活できれば、その人は他の人より幸せだということです。私にもし収入があれば、株でなく、金に投資するでしょう。金が再び世界のスタン

ダードとなり、ドルはかなり役に立たなくなるでしょう（南北戦争の後はどうでしたか？我々のカネは、あの崩壊の後の南部連合のカネのように価値のないものになるでしょう。）

次には、政府が非常事態と戒厳令を宣言するとき、地域から地域へと、軍事的占領が始まるでしょう。人々は恐慌を起し、ほとんどの地方は無政府状態となり、政府は、恐慌状態の市民をコントロールするのに必要な行動を起こすでしょう。このカルトの訓練を受けた軍事指導者と、彼らの指揮する者たちが、群衆制御の技術だけでなく武器をも使って、次のような新しい事態を実現するでしょう——各地方に軍事基地が設けられる（実はすでにあるのだが、隠されていた）。続く数年間に、彼らは地上に姿を見せる。各地方に、地方基地とその責任者としてのリーダーがいる。このヒエラルキーは、現在の隠されたヒエラルキーを正確に反映するだろう。

5年ほど前、私がイルミナティを離れたとき、米人口のほぼ1%が、イルミナティに属するか、シンパであるか、あるいはマインド・コントロールの犠牲者（したがって使える者たち）でした。これはそう多くないと思えるかもしれませんが、人口の1%が、兵器の使い方、群衆コントロール、心理・行動科学的技術に長け、武器をもち、準軍隊集団につながっていると想像してみてください。」

## リーダーシップ

スヴァーリ：

「国家評議会は、次のような古いマネーをもった、影響力絶大な銀行家からなっています——ロックフェラー家、メロン (Mellon) 家、カーネギー家、ロスチャイルド家、等々。名前をあげるべきでないことはわかっていますが、あえてあげます。

“最高世界議会”は、NWOが実現したときに政治を行う議会のプロトタイプとして、すでに設立されています。それは定期的に集合し、金融、方向、政策などを論じ、また起こってくる諸困難の問題解決をしています。ここでも、これらのリーダーは、金融世界、「古い」銀行マネーの頭たちです。イギリスとフランスのロスチャイルド一族が、支配者席についています。ハプスブルグ王朝のある子孫が、若い世代の席を占めています。イギリスとフランスの支配者家系のある子孫が、若い世代の席にいます。アメリカのロックフェラーも一席を占めています。

これが、イルミナティが長年の間、かなり“アンタッチャブル”だった理由の一つです。支配者メンバーは、極端に金持ちで力をもっています。私は、この情報が役に立つことを願っています。どうやってこれを知ったのかと思われるでしょう。私は、地方リーダーシップ会議にいたのですが（主任トレーナーとして）、地域会議の人たちと話をしたのです。また、

すべてのイルミナティの子供は、彼らの“リーダー”が誰々であるかを教えられ、彼らと“来るべき新秩序”に忠誠の誓いをするよう命じられています。」

## 王族

スヴァーリ：

「イルミナティでは、彼らは途切れないオカルトの伝統を継ぐだけでなく、王族の血統を継いでいると教えています。“王族” (royalty) には 2 つの定義がありました。一つは、現在一般的な開かれた王族。もう一つは、王の血筋と極端な力をもった“隠れた王族”です。時には英国皇太子がそうであるように、2 つが同時に存在する場合があります。

私は、どの国家/血統が最も力をもっているかを考えたことはありません。なにしろ私は仕事で忙しい、ただの従僕でしたから。しかし私の理解では、ハノーヴァー/ハプスブルグ家の子孫が、ドイツでは **Bruderheist** 会議を牛耳っています。彼らは、オカルトについても最強の家系の一つと考えられています。英国王家の家系はその少し下です。明らかに彼らは、オカルトの領域では、ロスチャイルドの下の英国支部を支配しています——議会在国家を公然と支配しているのですが。

フランスでもやはり、王家の子孫がオカルトの領域では、権力を握っていますが、フランスのロスチャイルドが彼らすべてに対する支配権をもっています。」

## アメリカの階位

スヴァーリ：

「アメリカは、ヨーロッパの支部よりも下で、より若いと考えられています。…ドイツ、フランス、そしてイギリスが、ヨーロッパのカルトでは三頭政治的支配者となっています。ソビエト連邦は、最強の軍事集団をもっていて、重要な存在でした。ソ連は、アメリカがもつようになる役割の**前には**、新世界秩序で 4 番目の地位を約束されていました。なぜなら、ソ連はこのアジェンダを推進するのに、長年にわたって役立ち、協力的だったからです。以前の支配家族[ロマノフ王朝]の子孫が、ここでも、より新しい者たちと共に、オカルト指導者に含まれていました。このカルトにマルクス主義はありません。

中国はソ連の次にランクされ、その次にアメリカが来ます。しかし現在のアメリカの指導層の多くは、変化が起これば、ヨーロッパへ行くでしょう。多くの者がそこに家をもっています。彼らはいわば、一夜にして国籍を変えるでしょう。これが私の覚えていることです。この問題についてもっと勉強すればよかったと思いますが、内部にいるときには、生き残るのにあまりにも忙しかったのです。ロシアはこの集団の軍事基地にも発電所にもなるでしょう。彼らの軍事司令官 (イルミニスト) は世界最上と考えられ、この上なく鍛えられているからです。中国もまた、東洋オカルティズムにその淵源をもち、人口が多いので、アメリカよりも上位の強国と考えられるでしょう。しかしやはり、本当の強さはヨーロッパにあるの

だと、私はこの集団の一員だったときに教えられました。

## 国連

スヴァーリ：

「国連は今世紀の初頭に創設されましたが、その目的は、一つの世界政府に対する障害を克服するためです。…その障害とはナショナリズム、あるいは祖国に対する誇りです。最初にこの概念が導入されたとき、あまり人気がなかったのはそのためです。これが実現するまでには、メディアによる国家バッシングと、長年のメディア・キャンペーンによる国家プライド感覚の破壊が必要でした。

国連は一つの準備であって、世界の本当の権力ではありません。だから NWO が実現したときにはあまり重要ではなくなるでしょう。そのとき本当の議会が前面に出てくるでしょう。しかし、一般大衆に“地球的共同体”とか“一つの世界政府”のアイデアを受け入れさせる手段としては、国連が、NWO への彼らの前進の一つの踏み石なのです。」

## イスラエル

スヴァーリ：

「中東の戦争は、単にイルミニストの利益のためです。彼らはイスラエルを憎んでいます。そしてそれがいつか破壊されることを願っており、その時に備えています。国連が優勢になったときに与えられるオリーブの枝（和解）の一つは、彼らが中東での戦争をやめさせることで、これは多くの人々に喜びをもって迎えられるでしょう。

しかし同時に、イルミナティはひそかに両側に武器や資金を与えて、戦闘を続けさせるでしょう。彼らはきわめて信用できない者たちです。例えば、彼らはソ連を通じてパレスチナに武器を送ったことがあり、これは、ソ連とパレスチナや他のアラブ諸国の“友好関係”を促進するという名目でした。次に、アメリカのイルミニストは、同じ理由によって、イスラエルに武器を送ろうとしました。この人たちはチェスが大好きなのです。国家間の戦争は、混沌から（彼らの）秩序を創りだすことだと考えているのです。」

## イルミナティはユダヤ人の陰謀？

スヴァーリ：

「絶対にそうではありません。実は、ヒトラーと彼の仲間（特に、ヒムラーとゲッペルス）は、トップのイルミニストでした。イルミナティは極端な人種差別主義者です。私は子供時代、バージニア州の私の農場でも、ヨーロッパではドイツの孤立した野営地でも、“強制収容所遊び”をやらされました。ユダヤ人たちは歴史的にオカルト信仰と戦ってきました。（申命記や旧約全体を見れば、いかに神がユダヤ人を通じて、各地にはびこっていたオカルト集団を、その土地から一掃しようとしていたかがわかります——バール、アシュタルテ、その

他カナンやバビロニアの神々を信仰していた人々です。)

〔ヘンリー・マコーへのあるEメールから〕

「確かに、この集団には非常に力をもったユダヤ人が何人かいます。たとえば、ロスチャイルド家は文字通り、ヨーロッパの（そして間接的にアメリカの）金融帝国を経営していて、よく知られたユダヤ人家系です。私はまた、その両親がユダヤ人のダイヤモンド商人だったような人々が、この集団のあらゆるレベルにいたのを知っています。しかし、イルミナティの中で力のある地位に昇進するためには、ユダヤ人は、夜中の儀式で、自分の信仰を捨て、ルシファーとイルミナティの信仰条項に忠誠を誓うように強制されます。彼らは、その裏切りの見返りとして、（金融的）権力と報酬がやってくると信じています。そしてある意味ではそうなります。しかしそれは（永遠の魂を失うという）あまりにも高い代価を払ってです。

にもかかわらず、ナチス/強制収容所の精神構造は非常に強力です。私が聞いたところでは、ヒトラー、ヒムラー、ゲッペルスなどが、この集団の高位のドイツ人メンバーで（ヒムラーがあとの2人より高位）、ドクター・メンゲレもまた雇われた傀儡でした。メンゲレは後に、南米に隠れていた期間中に、アメリカ支部の高位のトレーナーとして働きました。彼らは、ユダヤ人種を根絶するために、彼らの“神々”の手先として働いていると、心から信じていました。そして私は、この集団が、あれほど多くの恐ろしい行為をこの地上で働いたことを、本当に、本当に、申し訳なく思っています（そして、そこを抜け出したことを、本当にうれしく思っています）。私は、この証言があなた方の役に立てばいいと思っています。ただ、私がいつも不思議に思っていたことは——この集団の最高階級の金融業家族のある者（フランスのロスチャイルド男爵は、13のヨーロッパの大物、つまりヨーロッパのこの集団を動かす“王たち”の一人で、世界会議に座を占める）は、ユダヤ人であるにもかかわらず、なぜ、この集団は、自分の人種に対し憎しみを抱くのかということです。」（以上、2の1）